



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：511千円

## 静岡県多文化共生実態調査2016の詳細分析結果報告会

### 目的・趣旨

2016年度に静岡県から受託して本学が実施した静岡県多文化共生基礎調査の結果について専門的見地から詳細に分析した結果を報告した上で、静岡県における多文化共生施策の在り方に関する政策提言を行う。

### 日時・場所

平成29年10月24日 静岡県教育会館

### 体制

(実施代表者) 文化政策学部 国際文化学科 教授 池上 重弘

### 共催・後援等

(共催) 静岡県  
(後援) 公益財団法人静岡県国際交流協会 (SIR)

## 内容

静岡文化芸術大学と静岡県の共催により、10月24日（火曜日）に「アンケート結果から見える多文化共生の最前線—静岡県多文化共生基礎調査2016の詳細分析報告会」を静岡県教育会館において実施した。小坂拓也（静岡県）が静岡県の多文化共生施策と多文化共生基礎調査の概要を説明した後、調査結果を分析した以下の3報告が行われた。池上重弘（静岡文化芸術大学）「日本人調査から見える多文化共生意識の変容」、竹ノ下弘久（慶應義塾大学）「地域社会における外国人の生活と居住」、中川雅貴（国立社会保障・人口問題研究所）「外国人の就労状況に関する分析」。その後、参加者との間で質疑応答のディスカッションが行われた。



## 結果・成果

2016年の静岡県多文化共生基礎調査では、16歳以上の日本人県民と外国人県民を対象とした郵送法によるアンケート調査が行われた。その調査を受託した研究グループが2016年調査の結果を詳細に分析するとともに、同じく静岡県で2009年に実施された調査の結果とも比較対照しながら、静岡県における日本人の多文化共生意識や外国人の生活・就労状況等、多文化共生に関わる最新情報を伝えた。ブラジルやペルーから来日した日系人やフィリピン人の定住化の進展、東南アジアからの技能実習生の急増、結婚移民として生活しているアジア系女性の増加といった新たな動向を踏まえ、今後の多文化共生の在り方を考える機会となった。今回の報告会は平日の昼間に静岡市内で開催したので、県庁や静岡市職員等の行政関係者、国際交流協会の職員等の参加が多かった。また、外国人支援のボランティア活動に携わっている市民や多文化共生を専門に学んでいる学生らの参加も目立ち、約50名が参加した。

参加者は公開講座に参加する一般市民とは異なり、すでに多文化共生分野の専門的知識や経験を有する方が多かったため、後半の質疑応答やディスカッションでも専門的な内容について取り上げることができた。

